

栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

令和元(2019)年6月(週報第23週～第26週(6/3～6/30))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 [6月は4週間、5月は5週間、前年同期は4週間での比較となります。]

(1)概況

- ア. 6月の報告数は次のとおりです。全数(1～5類)把握疾病は87件(5月は60件)でした。定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は1,686件(定点あたり9.65件/週)であり、5月の1,983件(定点あたり9.17件/週)と比較し、週あたり1.05倍とほぼ同様の水準で推移しています。
- イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較(週あたり比)	前年同期との比較(週あたり比)
感染性胃腸炎	451件 (週あたり平均112.75件)	⇒ (0.93倍) 前月は607件 (週あたり平均121.40件)	⇩ (0.82倍) *前年同月は547件 (週あたり平均136.75件)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	345件 (週あたり平均86.25件)	⇒ (0.95倍) 前月は453件 (週あたり平均90.60件)	⇩ (0.79倍) *前年同月437件 (週あたり平均109.25件)
手足口病	296件 (週あたり平均74.00件)	⇩ (3.63倍) 前月は102件 (週あたり平均20.40件)	⇩ (5.29倍) *前年同月56件 (週あたり平均14.00件)

- ① 感染性胃腸炎は、前月に比べ報告数が0.93倍とほぼ同様の水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で0.82倍とやや低い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、やや低い水準で推移しています。
- ② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前月に比べ報告数が0.95倍とほぼ同様の水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で0.79倍とやや低い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、やや低い水準で推移しています。
- ③ 手足口病は、前月に比べ報告数が3.63倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で5.29倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、かなり高い水準で推移しています。

(2)全数(1～5類)把握疾病情報(全国)

- ア. 1類、2類及び3類疾病
結核1,634件(5月1,834件)、細菌性赤痢11件(5月8件)、腸管出血性大腸菌感染症417件(5月236件)、腸チフス2件(5月6件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。
- イ. 4類・5類(上位6疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	百日咳	1,396	1,315
2	梅毒	557	591
3	レジオネラ症	243	179
4	風しん	219	261
5	侵襲性肺炎球菌感染症	210	465
6	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	150	182

- ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計87件)
結核23件、細菌性赤痢1件、腸管出血性大腸菌感染症17件、A型肝炎1件、レジオネラ症10件、ウイルス性肝炎2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症4件、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)1件、急性脳炎5件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件、後天性免疫不全症候群1件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、侵襲性肺炎球菌感染症3件、梅毒8件、百日咳7件、風しん2件

2 疾病の予防解説

夏季に多く発生する感染症は、腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱（プール熱）、ヘルパンギーナ、手足口病などです。夏季は暑さのため体力を消耗しやすく、特に、乳幼児や基礎疾患を持つ高齢者などは、重症化することもありますので注意が必要です。

これらの感染症は、手洗いなどによる予防が有効です。日頃から、バランスの良い食事や十分な休養を心がけ、症状があるときは、早めに医療機関を受診しましょう。

疾病名	原因と潜伏期間	症状	予防対策
腸管出血性大腸菌感染症	ベロ毒素を産生する大腸菌O157、O26、O111など 3～5日間	全く症状が出ないこともありますが、下痢、発熱、激しい腹痛、血便などが見られ、ときに重症化し溶血性尿毒症症候群や脳症を合併することもあります。	トイレの後や、調理・食事の前には必ずせっけんで手を洗ってください。生肉を食べることは避け、内部まで十分に加熱(中心温度が75℃、1分以上)して食べるようにしてください。
咽頭結膜熱（プール熱）	アデノウイルス 5～7日間	発熱、頭痛、食欲不振、全身のだるさ、のどの痛み、結膜炎を伴う症状が3～5日間続きます。基礎疾患がある方、乳幼児、高齢者では重篤化することがあります。	手洗いやうがいを励行してください。プールの前後には、シャワー、うがいをきちんと行い、感染者との密接な接触(タオル・ハンカチの貸し借りなど)は避けてください。
ヘルパンギーナ	コクサッキーA ウィルスなど 2～4日間	突然 38～40℃の高熱が1～3日続き、のどの痛みが現れ、口の中に小さな水ぶくれができ、ただれて痛みをとまいません。水分が摂れず脱水症になることがあります。ごくまれに髄膜炎や心筋炎などを合併することもあります。	手洗いやうがいを励行してください。症状が消失した後(4週間程度)も、便の中にウイルスが排泄されますので、排便やおむつ交換後の手洗いを徹底して行ってください。感染者との密接な接触(タオル・ハンカチの貸し借りなど)は避けてください。
手足口病	コクサッキーA ウィルスなど 3～5日間	手・足・口の中に水疱性の発しんができ、時にかゆみ、発熱をとまなう場合もあります。ごくまれに髄膜炎や脳炎などを合併することもあります。	手洗いを励行してください。症状が消失した後(4週間程度)も、便の中にウイルスが排泄されますので、排便やおむつ交換後の手洗いを徹底して行ってください。

(参考)国立感染症研究所 ホームページ <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases.html>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、6月に県内で発生した警報および注意報は次のとおりです。

	第23週 (6/3～6/9)	第24週 (6/10～6/16)	第25週 (6/17～6/23)	第26週 (6/24～6/30)
水痘	【注意報】 県南			
流行性角結膜炎				【警報】 県西

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき(およそ上位1%以内)に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります